

キャラクター名

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス		ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	恩人
	ソラリス					
オプション			年齢			性別
覚醒	犠牲	衝動	恐怖		初期侵食率	33%
出自	孤児	経験	殺人		邂逅	腐れ縁

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	0	1			1	行動値	4
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	6	0	0			6	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
記憶探査者 (メモリダイバー)	P 信頼	N 不安		
力道 護	P 好奇心	N 無関心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 14    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
狂戦士	5	5	メジャーアクション	視界	単体	自動	80%	
効果: クリティカル値を-1ダイスを+level×2個								
ポイズンフォッグ	2	2	メジャー	至近	単体			
効果: エフェクトを至近、対象に変更する								
戦乙女の導き	4	2	メジャー	至近	単体	自動		
効果: ダイスを+level個、攻撃の場合+5する。								
扇動の香り	3	5	セットアップ	視界	単体	自動		
効果: 攻撃するPCは命中判定のダイスを+level個する								
癒しの水	1	2	メジャー	視界		自動		
効果: HPをlevel+精神回復する。								
力の霊水	3	4	オート	視界	単体	自動	80	
効果: 攻撃の直前に使用可能。ダメージを+3D。1ラウンドに1回。								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

名前はライ。  
 幼い頃両親が亡くなって孤児にいたが何年か経ったある日彼は偶然院長が誰かと話してるのを目撃した。内容は両親を殺した…そしてその理由を電話で話していた。幸い院長はまだ彼には気づいていなかった。だが彼はまだ本当に殺したのか確信が持てなかった。聞き間違いかもしれない…彼は悩んだ。院長は誰にでも優しくいい人だから、でも彼にはいい人とは思えなかった。だから彼は院長に聞きに行った。彼の事をどう思っているかを…そして彼は院長の事を恨んだ。復讐しようと思った。だがすぐには復讐を遂げようとは思わなかった。薄々気づいていたのだ…彼はまだ院長に勝てない…と、そして何年か経ち準備を念入りにして院長を殺した。復讐を遂げたのだ…だが孤児院の子供たちは彼が殺した…と疑った。孤児院の子供たちは院長の事が大好きだった。彼だけが恨んでいた。居場所がなくなった、彼は殺したその日に孤児院を出た。幸い彼には院長が持っていたお金を幾らか持ってきていた。彼は色々な所を転々とした。そしてある日お金が底をついた日ある人に会った。  
 「これから、どうしよう？」  
 「やあ、君はこんな所で何してるの？」  
 「別に、お前には関係ないだろう」  
 「うん、関係ないね。でも僕にはお金が無い君が見えるんだけど気のせいかな？」  
 「ああ、そうだよ。お金が無いんだよ。」  
 「それで君は両親は？」  
 「死んだよ。何年前に…」  
 「そして、それが原因で居場所がなくなった。」  
 「ふむ。その事を詳しく教えてもらえないかな？助けになりたいんだ。」  
 知らない人なのに何故か彼自身が行った罪について話す彼がいた。  
 「それで君は彼を殺したことを後悔しているのかい？」  
 「いや、それは無い」  
 「じゃあ、それでいいんじゃないの。」  
 「えっ？」